

# 農作業特報

黒部市  
黒部市農業技術会議

高品質で美味しい「黒部米」は、元気な土づくりが基本です。登熟期の高温などの気象変動に備え、土への愛情を込めて、元気な土づくりをお願いします。



## 土壌診断結果に基づく土づくりの実践！

「土づくり」は作物への効果がわかりにくく、病虫害や雑草の防除と比べると、ついつい後回しになりがちです。このため、土壌分析結果でも目標に達していないほ場が見られます（図1）。特に沖積土ではケイ酸やカリが不足し、「ごま葉枯病」（写真1）の発生や気象変動による収量・品質の低下が心配されます。

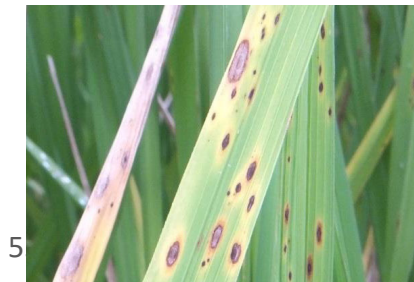


写真1 ごま葉枯病の病斑

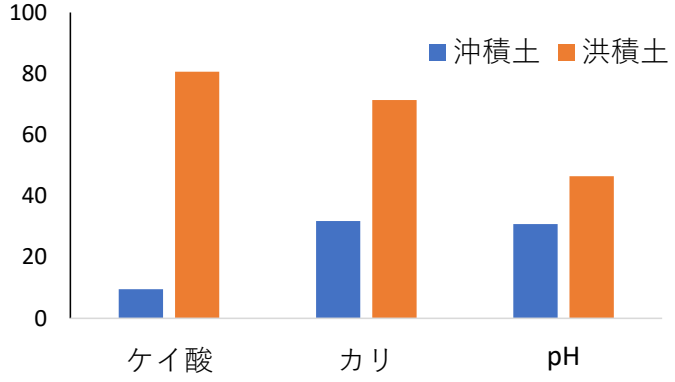


図1 目標達成状況（R4度）

## ケイ酸やカリの効果

カリは稲体の酵素活性や光合成に関与し、デンプンの蓄積促進や病害抵抗性の増加により収量向上に効果が期待されます（図2）。ケイ酸は茎葉の丈夫にし、病虫害や倒伏の抵抗性の増加、受光体勢の向上、蒸散能力の向上により気象変動の影響を少なくし、収量・品質の向上に効果があります。高温条件下でも茎葉のケイ酸濃度が高いと稲体の栄養状態が維持され、整粒歩合が向上しています（図3）。

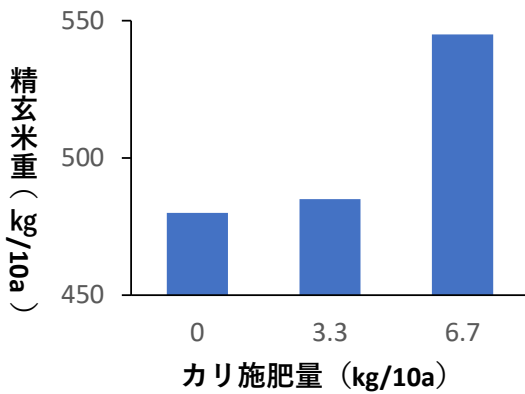


図2

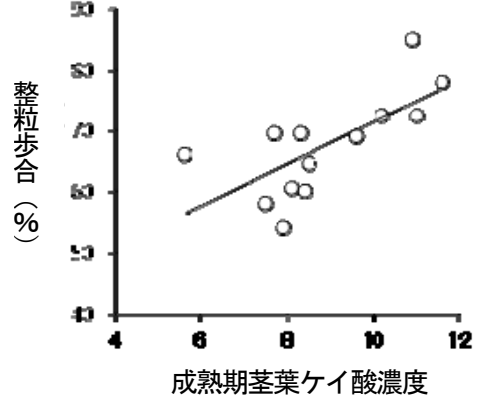


図3

## 「元気な土づくりのポイント」

### ポイント1：土づくり資材の施用

土づくり資材の施用で、葉や根を丈夫にし、病気や倒伏、気象変動に強い稲を作りましょう。

資材名	資材の特徴と保証成分量	10a 当り施用量
<b>粒状ケイカル</b>	稲体を丈夫にし、倒伏やいもち病の抵抗性が増し、pH 矯正に効果がある資材(ケイ酸30%、アルカリ分45%)	<b>200kg</b>
<b>アサヒニューテツ</b>	秋落ちしやすい砂質浅耕土等の鉄分補給と稲が吸収しやすいケイ酸を同時施用する資材 (ケイ酸20%、アルカリ分30%、鉄分16.8%、苦土3.5%)	<b>100kg</b>
<b>シリカロマン</b>	土づくりに必要な成分を一度に施用できる複合資材 (ケイ酸25%、アルカリ分45%、鉄分*5.0%、苦土7%、リン酸5%)	<b>100kg</b>

※含有成分量

### ポイント2：有機物の施用

○堆肥や発酵鶏ふんの施用で地力を高めましょう。

- ・堆肥散布後は、速やかに耕起作業を行いましょう。
- ・春施用の場合は、コシヒカリは基肥チツソで1～2kg/10a 減肥して下さい。  
(基肥206では10～15kg/10a、有機Jコートコンヒカ3号では5～10kg/10aを減肥する。)

堆肥の施用	秋施用の場合 (10a 当たり)	春施用の場合 (10a 当たり)	水分※
牛ふん堆肥	2 t	2 t	65%
豚ふん堆肥	1 t	0.5～1 t	45%
発酵鶏ふん堆肥	乾田150kg 半湿田100kg	乾田100kg 半湿田75kg	24%

※堆肥の水分は参考値です。入手する堆肥の肥料成分を確認しましょう。

### ポイント3：深耕の実施

作土層が浅いと、気温や水分変化の影響を受けやすく、根が伸びるスペースも少なくなります。秋耕と春耕の2回掛けにより、稲わらの腐熟促進と作土深の確保に努めましょう。

#### ○作土深15cm以上を確保するための方法

- ・ロータリーによる秋耕と春耕との2回掛けやプラウ等を活用しましょう。
- ・春耕時はトラクターの速度を落とし、丁寧に深耕しましょう。

#### ○稲わらの腐熟を促進し、田植後のワキを改善

- ・秋耕は気温の高い10月いっぱいに行い、稲わらを腐熟させましょう。
- ・長雨等で、ほ場がぬかるんで秋耕ができない場合は排水溝を設けて水はけを良くしましょう。